

## B-5 山元町笠野地区

2012年7月28日(土)・29日(日)

---

報告者名	稲澤 努	被調査者生年	1948年(男)
調査者名	稲澤 努	被調査者属性	笠浜甚句保存会代表、笠野地区副区長
補助調査者	金 賢貞		

---

### 話者について

笠野地区副区長、笠浜甚句保存会代表である。なお、2011年度報告 B-1 話者②と同一人物である。

### 笠浜甚句保存会の活動について

活動はまだ再開していない。活動の主力だった婦人部の組織が戻っていない。今年3月の地区の部落の総会の議題にもしなかった。

OGの方を中心に復活させようかと思って少し動いたが、なかなか難しい。全員がそれぞれの生活に余裕がなく、会を引っ張っていくのも難しい。どのような形で復活させるか、どういうきっかけ作りをするのか、話を切り出すタイミングも難しい。

ただ、町の教育委員会の担当の説明にもあるように、助成金ができるうちに衣装などを準備したい。自分たち、あるいは地区の金で準備する余裕はない。だから早くやりたいとは思いますが、その時期はいつがいいのかは計りかねている。

### 八重垣神社の祭り準備について

宵祭り当日である今朝9時から駐車場のライン引きなど会場準備をした。これまでは、総代長が大会委員長になり、新浜と笠野の地区長が副委員長を務め、組織としては、班長さんがいて、地元青年部、消防団、各種団体が集まって旗たてなど準備をした。しかし、こういう状況なので、今日実際に準備に来たのは、笠野からは総代5人、新浜からは区長、副区長である。新浜は区長が総代長を、副区長が副総代長を兼ねる。自分は笠野の副区長だから行かなくてもいいのだが、毎年手伝っていたので今年も行った。

今年は旗も、旗の立つのを支える石も流されたので、旗立もしない。旗立は、立てるのも戻すのも大変な作業なので、青年部などの協力がなくてできない重労働である。今年はこの作業がないので、総代だけで十分だった。

### 地区と神社の祭りの関係

部落の総会の終了後すぐあとに、同じ場所で神社の総会をやる。神社に入らない人はいてもいなくても構わない。神社総会は、笠野は笠野で、新浜は新浜でそれぞれ行う。この辺では、区民=氏子と一般的に認識される。ただ、入らなくてもいい。お祭りの費用などは通常は区で班長さんを通して集める。震災前は、花火代1,500円と、援助金1,500円の計3,000円を各世帯から集めていた。ただし、今年は区費も集めていないくらいで、もちろん花火代や援助金ももらっていない。その他、地区外の商店の寄付も集める。今年はこの資金だけで行う。

総代が主催する祭りのほかに、新年祈願祭を行う。1月1日(震災前は必ず)。これは総代会ではなく、地区が主催する。新浜、笠野地区で関係の長についた人を集めて祈願する。また、二百十日(にひゃくとうか)には、部落の端々にお札を建てる。台風がくる時期なので、地区の中の安全を祈願する。現在では簡略化して、区長だけが行ってやっている。今年、区で金がないからやらないと思う。



写真1 宵祭りの屋台と若者



写真2 浜での神輿休息所準備

### 今年の祭りの形態

明日の朝役員は6時に集合し、出店の出たあとの境内の掃除を行う。また、海近くで神輿を休ませる場所の設置も行う。砂浜に笹を刺して四角い場所を作る。

昼から宮司の祈祷のあと、神社でわっしょいわっしょいと神輿を担ぎ、その後海に行く。そこで神輿を休ませ、祝詞をあげる。祝詞をあげお祓いがおわった後、おそらくこの暑さなら神輿は海に入るだろう。むかしは担ぎ手はノバだった(何もつけていなかった)。それがふんどしになり、パンツになり…と変化した。それが終わると、海から上がって、グランド仮設と東田仮設へ車で行く。本来ならば、子供たちに小さな旗を持たせて神輿の前を歩かせるが、旗も流されたので、今年はない。自分は先頭で塩まきをする。その他、太鼓と賽銭箱は神輿と一緒に回る。以前は新築した家や、結婚した家のあたりではわっしょいわっしょいと回って、お賽銭をたくさんもらったりしたらしい。でも私も婿だから、そんなに昔の話は知らない(結婚は43年前)。

### 震災後の移住

仮設住宅に住むにあたり、町から意向調査があった。子供が多い人などは、学校に近いここを選んだ。自分は孫が通学することのほか、妻の実家がこの近くにあることもありここを希望した。入居は正式には9月1日、カギは8月22日に渡された。

震災後、区民はばらばらに住むようになったので、以前は16班まであった班の制度を崩してしまった。笠野区民の現在の住所は、グランド仮設に約50世帯、東田仮設に約35世帯、町外(住所変更届のあるもの)約60世帯、その他(変更届のない移住)約70世帯。今月2回目の意向調査があり、それを集計して移転先がきまる。町のコンパクトシティ計画では、3か所の移転先を準備している。

地区としての移住への対応はなく、個別の選択になる。ただし、笠野地区としても集団移転の話もあった。去年9月から、区長や私が集まりを開いた。7月26日夜に最終の集まりをした。最初の意向調査では集団移転希望が30軒、考え中の方が33軒、他は自分で処理するという意向だった。そこで、前2者の63軒に通知をだし、役場の人も呼んで会合をした。しかし、7月22日昼に会合を開いたが、何人も来なかった。そこで再度26日夜に集まったが、その時、今回の集団移転はもう区の仕事ではない、となった。区の1割か2割の人が騒いでいるだけなので、区としてはできない。そこで別組織を作ってもらった。

町からは希望者が最低50戸ないと集団移転はダメだといわれている。国としては5軒でもいいらしいが、市町村ごとの街づくりの考え方がある。山元町のコンパクトシティ計画は、偉い先生方が決めて、住民の話を聞かなかった。たしかに、コンパクトにすれば、今後の町の持ち出しは少なくなる。でも、山元で限界集落になるような事態はないと思う。逆に、例えば丸森など、オカの方が心配なくらいだ。

地区の中でも自分の班は、割と家が残った。だから、当初は修築して直して住むという意向の人が多かった。私の家は流されたが、100メートルほど近所に流されずに残った家があり、その持ち主に譲ってもらえることになっ

ていた。もう話をつけて、あとは大工さんに修理さえ頼めばよかった。でも、1種地区から1種地区への移転なので、もとの宅地は買い上げされないとあとで分かった。そうすると、家を建てる資金が捻出できない。危険区域を指定した結果、たとえば1種から3種に移転して両方が自分の土地であっても、1種の土地を買い上げてはもらえない。それでは新しい家は建てられない。私の家も、土地を買ってもらえば1,000万円くらいになる。それを捨てるしかないとなると、地区内での移転を断念することになる。そういう家は笠野にはたくさんある。農家は土地を持っていたから、それを買ってもらえないとなると、どうしようもない。山下駅前でリフォームしてしまった人が、そこが危険区域となったため、農地を買ってもらえなくなって、泣くしかないという話も聞いた。みな農地などがあるので、できるだけその近くに住みたいと思っている。だから、出たい人の土地を買い上げてくれればそれでいいのに、条件をつけるので住みたい人も住めないのは、我々からすると矛盾すると思う。



写真3 神輿と一緒にまわる費銭箱への寄付



写真4 仮設住宅を廻る神輿